

# 第67期 株主通信

2011年4月1日～2012年3月31日

**RIVER**  
One and Only Creator



リバーの水晶製品は  
暮らしの中で  
使われています



リバーエレクトック株式会社

証券コード 6666



## 競争力を全面に打ち出し、 変革と業容の拡大を目指す2012年度へ

代表取締役社長 若尾 富士男



当期の総括をお願いします

### A. 相継ぐ自然災害の発生等により需要が低迷する厳しい期となりました

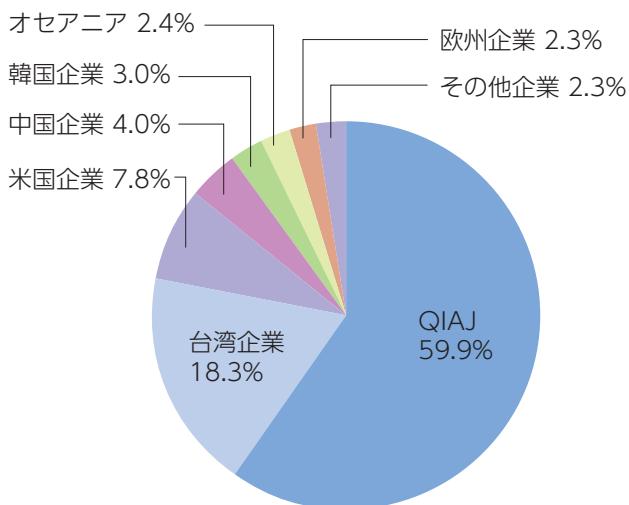
2011年における日本経済は、東日本大震災後の景気落ち込みから持ち直しの兆しを見せたものの、急激な円高進行やタイ洪水の影響を受けた生産活動の伸び悩み等により、回復は緩やかに推移いたしました。また世界経済においては、欧州各国の深刻な債務危機の金融市場への混乱波及や主要各国の経済成長への影響懸念など、先行きの不透明な状況が続いています。

このような中、リバーグループは創業60周年という節目の前期を初年度として策定した3年間の第3次中期経営計画（RIVER VISION 2013）に基づき、「アジア地域の営業体制の再構築と販売網の拡充」「音叉型水晶振動子のコスト競争力強化」「経営資源の有効活用」という3つの重点施策を推進してまいりました。

しかし、期初から東日本大震災の後遺症による得意先

の生産調整があり、秋口からはタイ洪水の発生、また期を通して歴史的な円高が進行するなど、当社を取り巻く経営環境は一段と厳しさを増しました。当社は、スマートフォン等の活況市場への販売強化に注力し、固定費の削減や海外への生産シフト等による経営改善策を進めてまいりましたが、市場競争激化による売価下落等の影響を吸収することができませんでした。この結果、売上高は5,486百万円（前期比5.6%減）と前期に比べ326百万円の減収となり、また、営業損失は77百万円（前期は107百万円の営業利益）、経常損失は105百万円（前期は110百万円の経常利益）、当期純損失は投資有価証券評価損61百万円等の特別損失計上などにより201百万円（前期は90百万円の当期純利益）となりました。

#### 水晶デバイス市場世界シェア（QIAJ推定）



#### Q 水晶業界の現状と今後の動向についてお聞かせください

##### A. 自然災害等の影響から数量、金額ともに前年より減少しました

日本水晶デバイス工業会（QIAJ）の推計では、2011年度における水晶デバイスの生産実績は、前述した大震災等の影響により数量・金額ともに前年度を下回るものとなり、携帯電話（スマートフォンを含む）及び自動車関連等は堅調に推移したものの、総じて厳しい状況でありました。これはマイナス要因の大きさに対して、市場を牽引するような新製品や新技術の開発などプラス要因が少なかったためであり、2011年度の実生産数量は98.9億個と対前年度比87.7%となり、また生産金額も1,906.2億円、対前年度比83.8%にとどまりました。

2012年度は、水晶が関連する電子・電機業界、自動車業界の着実な回復が見込まれ、特にスマートフォンの出荷台数がさらにアップするとの予測から、水晶デバイスの需要はさらに増加するものと思われます。

水晶デバイス業界は、日本の独自技術が支えている数少ない製造業のひとつではありますが、台湾などの海外メーカーの急伸により、市場環境はさらに厳しくなることが予想されます。したがって当社は、新商品開発技術力のさらなる向上を図り、小型化技術や品質の高さなどの強みによりいっそう磨きをかけていかなければならないと考えています。

また、水晶デバイスの価格下落については、業界特有の深刻な問題だと認識しております。国内外ユーザーが

らの値下げ要請が一段と厳しくなっている状況下において、海外の部品メーカーを交えて熾烈な価格競争が繰り広げられておりますが、このような過当競争は市場の健全性を損なう恐れがあり、好ましい状況とは思われません。

当社は、日本水晶デバイス工業会の一員として適正かつ公正な市場競争を通じて経営の健全性維持に努めてまいります。

## Q 中国の生産拠点について現状を教えてください

### A. 6月から生産を開始しました。さらに強力な生販一体の事業体制を築きます

当初販売会社として設立した西安大河晶振科技有限公司は、2013年3月期から本格的に水晶デバイスの生産を開始しました。マレーシアの工場に次ぐ海外では2番目の生産拠点ですが、中国市場の成長性を踏まえて、生販一体の事業体制で取り組むことにしました。主に携帯電話向けをはじめとする水晶部品の現地需要が伸びていることから、当面は



32kHz帯の音叉型水晶振動子の生産ラインを立ち上げ、今後は市場の状況を見ながら生産体制を増強していきます。という

のも中国は商社販売が多いのですが、大手メーカーへの参入や直接販売比率を高めていくためには、生産キャパシティの拡大と強力な販売体制づくりが必要になってくるからです。

## Q 第68期の業績見込みについてお聞かせください

### A. 中国を中心としたアジア地域での水晶製品事業拡大をはじめ、全社に利益追求への意識を浸透させ、第68期計画達成への施策を進めます

米国経済は緩やかに回復しているものの、欧州では債務危機が依然として深刻な状況であり、緊縮財政政策の影響で成長が妨げられ景気回復の遅れが懸念される等、先行き不透明な状況が続くものと思われまます。このような環境下で当社グループは、中国を中心としたアジア地域での水晶製品事業拡大と経営資源の最適配分化によるグループ一体となったトータルコストの削減に努めることで経営効率を高め、全てのステークホルダーにとって価値ある会社を目指してまいります。業績予想は以下の表の通りであります。2013年3月期の為替レートは1ドル82円を前提としております。

#### 第68期（2013年3月期）業績予想

売上高	7,056百万円（前期比+28.6%）
営業利益	55百万円
経常利益	66百万円
当期純利益	28百万円
1株当たり当期純利益	3.86円

## Q 株主還元についてはどのようにお考えでしょうか

### A. 今後も連結配当性向20%以上を目安とします

当社は、長期安定的な企業価値向上によって、株主様への安定的な配当を継続的に行うことを経営の最重要課題としております。前期はようやく復配を果たすことができ、当期においても中間配当1円、期末配当2円（年間3円）を実施することができました。なお第68期（2013年3月期）の配当においても上記方針並びに企業成長及び財務の健全性を考慮した内部留保などを総合的に判断し、増配を目指してまいります。

株価対策については、私自身も機関投資家とのミーティングやマスメディアへの積極的な取材協力など、IR・PR活動に注力しております。また、業績を上げ積み重ねていくことが結果として株主の皆様のご期待にお応えすることであると考えております。

## Q 最後に株主の皆様メッセージをお願いします

### A. 今年は変革と業容の拡大を目指す勝負の年と考えております

株主の皆様は、日頃から当社の業績や技術・開発動向などの経営情報にご注目いただいていることと思っておりますが、当社へのご意見やアンケートを拝見いたしますと、株主様が業績のみならず、技術力や成長性といった当社の未来へのご期待の気持ちから株式をお持ちになってく

ださっていることが良くわかります。

当期は計画未達という誠に遺憾な結果を残してしまいましたが、社内には第68期（2013年3月期）が当社にとって勝負の期であるということを繰り返し発信しております。リバーグループが絶えず成長していくためには、たゆまず努力し続けることが大切ですが、常識にとられない「創造力」と市場が求めている製品・サービスをカタチにする「行動力」を以って、全てのステークホルダーの満足度を高め、経営方針を確実に実行していくことが必要不可欠であると考えております。

第68期（2013年3月期）におきましては、株主の皆様のご期待や応援して下さる気持ちにお応えすることができるよう役員はじめ社員一同最大限の努力と実行力を以って日々の業務に邁進いたします。

より一層のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。





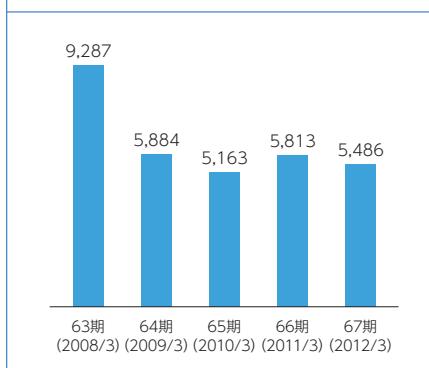
# Financial Highlights

5年間の業績推移(連結)

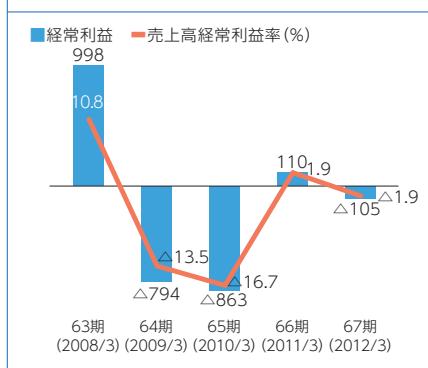
(単位:千円)

3月31日に終了した年度	2008	2009	2010	2011	2012
売上高	9,287,110	5,884,751	5,163,837	5,813,028	5,486,286
売上総利益	2,695,764	577,290	315,394	1,362,133	1,196,243
売上総利益率	29.0%	9.8%	6.1%	23.4%	21.8%
営業利益	992,721	△ 795,168	△ 883,212	107,771	△ 77,962
営業利益率	10.7%	△ 13.5%	△ 17.1%	1.9%	△ 1.4%
経常利益	998,850	△ 794,920	△ 863,116	110,941	△ 105,241
経常利益率	10.8%	△ 13.5%	△ 16.7%	1.9%	△ 1.9%
当期純利益	588,131	△ 1,425,763	△ 3,486,428	90,738	△ 201,498
当期純利益率	6.3%	△ 24.2%	△ 67.5%	1.6%	△ 3.7%
設備投資	2,024,521	774,839	452,501	508,043	862,479
減価償却費	1,147,776	1,218,660	1,036,913	475,861	518,176
研究開発費	266,364	228,002	165,153	143,684	162,168
<b>年度末</b>					
総資産	12,474,601	10,871,430	7,490,442	7,435,024	7,786,351
自己資本	8,345,694	6,574,584	3,136,827	3,144,091	2,890,662
有利子負債	1,376,331	2,820,138	2,562,060	2,659,710	2,904,849
従業員数(人)	378	368	372	371	370
(外、契約社員、派遣社員等)	(467)	(306)	(310)	(310)	(287)

売上高 (単位:百万円)



経常利益・売上高経常利益率 (単位:百万円)



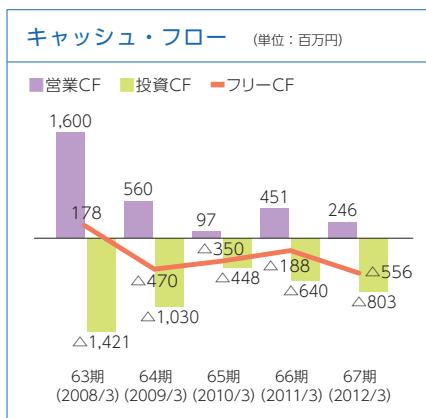
設備投資・減価償却費 (単位:百万円)



(単位:千円)

3月31日に終了した年度	2008	2009	2010	2011	2012
<b>セグメント別売上高</b>					
水晶製品	8,610,299	5,469,515	4,901,125	5,604,277	5,355,782
構成比	92.7%	92.9%	94.9%	96.4%	97.6%
抵抗器	362,801	201,692	109,434	—	—
構成比	3.9%	3.4%	2.1%	—	—
インダクタ	226,836	152,059	97,646	—	—
構成比	2.5%	2.6%	1.9%	—	—
その他	87,173	61,484	55,630	208,751	130,504
構成比	0.9%	1.1%	1.1%	3.6%	2.4%
<b>キャッシュ・フロー</b>					
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,600,438	560,047	97,837	451,477	246,785
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,421,878	△ 1,030,143	△ 448,604	△ 640,438	△ 803,499
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 568,306	1,348,798	△ 258,941	97,483	217,191
現金及び現金同等物の期末残高	987,369	1,749,468	1,149,417	1,043,543	690,546
(単位:円)					
<b>1株当たり指標</b>					
1株当たり当期純利益	78.51	△ 190.67	△ 472.95	12.31	△ 27.33
1株当たり純資産	1,114.01	891.88	425.53	426.52	392.14
1株当たり配当金	15.00	3.00	0.00	3.00	3.00

注) 2011年3月期より報告セグメントを「水晶製品事業」と「その他の電子部品事業」に変更しております。



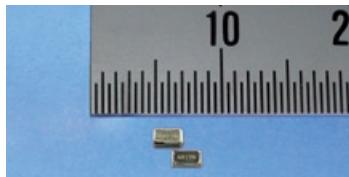


### 当期業績の概要

当期におけるわが国経済は、東日本大震災の影響による経済活動の停滞から持ち直しの動きが見られ、海外においても米国や新興国では景気の回復傾向にありましたが、欧州の財政・金融不安や急激な円高の進行などにより、景気の先行きが不透明な状況で推移いたしました。

当社グループが主に事業を展開している水晶デバイス業界は、東日本大震災及びタイ洪水の影響から一時的に部品需要が低迷し、また、海外メーカーの台頭により企業間競争が激化しており、引き続き予断を許さない状況となっております。

このような状況の中、当社グループは、「高付加価値企業」の実現を目指し、水晶製品の「小型・薄型化」におけるリーディング・カンパニーを目指した活動を推進しました。成長基盤の強化としては、海外販売網の強化を進めました。重点拠点である中国において、人的資源を強化し、管理体制の再構築を進めました。また、現地生産能力の増強とコスト競争力強化のため、中国販売子会社に製造機能を持たせ海外事業の強化を図りました。また、成長ドライバーである音叉型水晶振動子において、主力製品の低背タイプ（製品名：TFX-03L）を販売開始するなど、販売の拡大を図りました。さらに、グループ全体で経営資源を最適配分し、収益力の向上を図りました。



従来の主力製品TFX-03（写真上）と低背タイプTFX-03L（写真下）の比較

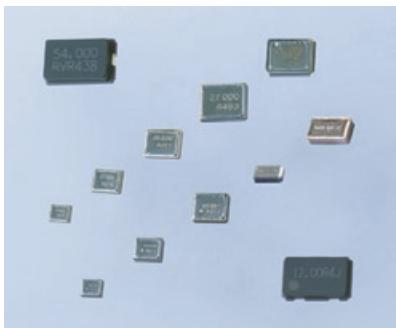
当期の業績は、タイ洪水による影響や水晶製品の販売価格競争の激化などから売上高5,486百万円（前期比5.6%減）と前期に比べ減収となりました。また、損益につきましては固定費の削減や海外への生産シフト等による経営改善策を進めてまいりましたが、市場競争激化による売価下落等の影響を吸収しきれず、営業損失は77百万円（前期は107百万円の営業利益）、経常損失は105百万円（前期は110百万円の経常利益）となりました。また、当期純損失は投資有価証券評価損61百万円等を特別損失として計上したことなどもあり、201百万円（前期は90百万円の当期純利益）となりました。

売上高	5,486百万円
営業損失	77百万円
経常損失	105百万円
当期純損失	201百万円

## セグメント別事業概要

### 水晶製品事業

連結売上高：53億55百万円 セグメント損失：102百万円



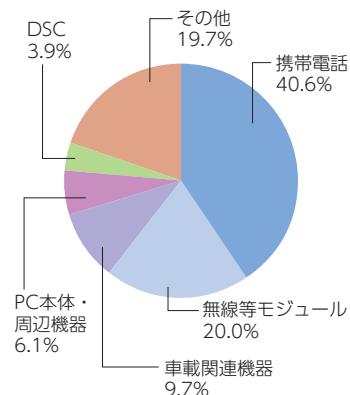
水晶製品事業につきましては、重要戦略の1つとして注力している超小型音叉型水晶振動子の受注が堅調だったものの、売上高は前期比4.4%の減収となりました。

スマートフォンを含む携帯電話向けは、搭載される主力製品のTFX-03の売上高が前期に比べ2.1%増加しましたが、価格競争の影響で前期比6.0%減となりました。

無線等モジュール向けは、主にスマートフォン用の超小型製品の受注は好調に推移し、売上高は前期比72.6%増の増収となりました。

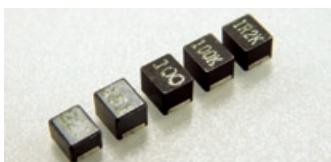
車載関連向け、PC本体・周辺機器向けはタイの洪水被害の影響から受注が鈍化し、売上高は前期比17.7%減と大幅な減収となりました。

### 用途別売上高構成（連結）



### その他の電子部品事業

連結売上高：1億30百万円 セグメント損失：2百万円



その他の電子部品事業につきましては、海外向けの抵抗器やインダクタ等の事業を中心に展開しております。

抵抗器及びインダクタの事業縮小の影響により、売上高は130百万円（前期比37.5%減）、セグメント損失は2百万円（前期は12百万円のセグメント利益）となりました。

### 国内海外 売上高構成（連結）





# Consolidated Financial Statements

連結財務諸表

## 連結のポイント

### ポイント：貸借対照表

#### 1 資産

現金及び預金等の減少はあったものの、売上債権や有形固定資産の増加により、前期に比べ351百万円の増加となりました。

#### 2 負債純資産

負債は、短期有利子負債や仕入債務の増加により、前期に比べ604百万円の増加となりました。また、純資産は、当期純損失による利益剰余金の減少により、前期に比べ253百万円の減少となりました。

### ポイント：損益計算書

#### 3 営業利益又は営業損失（△）

音叉型水晶振動子の受注が伸びたものの、販売単価の下落によって全体の減収による影響を吸収することができず、前期に比べ185百万円の減少となりました。

#### 4 特別損失

当期に投資有価証券評価損61百万円を特別損失として計上したことにより、前期に比べ71百万円の増加となりました。

### ポイント：キャッシュ・フロー計算書

#### 5 営業活動によるキャッシュ・フロー

減価償却費や仕入債務の増加による資金はあったものの、税金等調整前当期純損失や売上債権及びたな卸資産の増加により、前期に比べ得られた資金は減少しております。

#### 6 投資活動によるキャッシュ・フロー

有形固定資産の取得、定期預金の預入による支出により、前期に比べ使用した資金は増加しております。

#### 7 財務活動によるキャッシュ・フロー

長期借入金の返済はあったものの、短期借入金の純増、長期借入金による収入があったため、前期に比べ得られた資金は増加しております。

## 連結貸借対照表（要旨）

（単位：千円）

科目	当期 (2012年3月31日現在)	前期 (2011年3月31日現在)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>	<b>4,384,071</b>	<b>4,301,035</b>
現金及び預金	1,337,541	1,490,241
受取手形及び売掛金	1,545,677	1,430,261
たな卸資産	1,278,966	1,228,921
その他	225,498	154,314
貸倒引当金	△ 3,614	△ 2,703
<b>固定資産</b>	<b>3,402,280</b>	<b>3,133,989</b>
有形固定資産	3,155,803	2,825,120
無形固定資産	15,239	18,033
投資その他の資産	231,237	290,834
<b>1 資産</b>	<b>7,786,351</b>	<b>7,435,024</b>
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>	<b>3,379,137</b>	<b>2,741,498</b>
支払手形及び買掛金	885,044	813,617
短期有利子負債	1,726,976	1,417,787
その他	767,117	510,093
<b>固定負債</b>	<b>1,516,552</b>	<b>1,549,403</b>
長期有利子負債	1,177,873	1,241,923
その他	338,678	307,480
<b>負債</b>	<b>4,895,689</b>	<b>4,290,902</b>
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>	<b>3,294,792</b>	<b>3,525,776</b>
資本金	1,070,520	1,070,520
資本剰余金	957,810	957,810
利益剰余金	1,284,228	1,515,213
自己株式	△ 17,766	△ 17,766
<b>その他の包括利益累計額</b>	<b>△ 404,129</b>	<b>△ 381,685</b>
その他有価証券評価差額金	△ 7,724	△ 34,972
為替換算調整勘定	△ 396,405	△ 346,712
少数株主持分	—	30
<b>純資産</b>	<b>2,890,662</b>	<b>3,144,122</b>
<b>2 負債純資産</b>	<b>7,786,351</b>	<b>7,435,024</b>



## 連結損益計算書(要旨)

(単位:千円)

科目	当期	前期
	2011年4月1日から 2012年3月31日まで	2010年4月1日から 2011年3月31日まで
売上高	5,486,286	5,813,028
売上原価	4,290,043	4,450,895
売上総利益	1,196,243	1,362,133
販売費及び一般管理費	1,274,205	1,254,362
<b>3 営業利益又は営業損失(△)</b>	<b>△ 77,962</b>	<b>107,771</b>
営業外収益	27,213	47,795
営業外費用	54,492	44,624
経常利益又は経常損失(△)	△ 105,241	110,941
特別利益	1,833	9,183
<b>4 特別損失</b>	<b>81,995</b>	<b>10,595</b>
税金等調整前当期純利益又は 税金等調整前当期純損失(△)	△ 185,403	109,529
法人税、住民税及び事業税	11,129	13,163
法人税等調整額	4,966	337
少数株主損益調整前当期純利益又は 少数株主損益調整前当期純損失(△)	△ 201,498	96,028
少数株主利益	—	5,290
当期純利益又は当期純損失(△)	△ 201,498	90,738

## 連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:千円)

科目	当期	前期
	2011年4月1日から 2012年3月31日まで	2010年4月1日から 2011年3月31日まで
<b>5 営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>246,785</b>	<b>451,477</b>
<b>6 投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△ 803,499</b>	<b>△ 640,438</b>
<b>7 財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>217,191</b>	<b>97,483</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 13,472	△ 14,397
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 352,996	△ 105,874
現金及び現金同等物の期首残高	1,043,543	1,149,417
現金及び現金同等物の期末残高	690,546	1,043,543

## 連結株主資本等変動計算書(要旨)

(単位:千円)

科目	当期	前期	
	2011年4月1日から 2012年3月31日まで	2010年4月1日から 2011年3月31日まで	
資本金	当期首残高	1,070,520	1,070,520
	当期末残高	1,070,520	1,070,520
資本剰余金	当期首残高	957,810	957,810
	当期末残高	957,810	957,810
利益剰余金	当期首残高	1,515,213	1,424,475
	当期変動額		
株主資本	剰余金の配当	△29,486	—
	当期純利益又は当期純損失(△)	△201,498	90,738
	当期変動額合計	△230,984	90,738
	当期末残高	1,284,228	1,515,213
	自己株式		
	当期首残高	△17,766	△ 17,759
	当期変動額		
	自己株式の取得	—	△ 6
	当期変動額合計	—	△ 6
	当期末残高	△17,766	△ 17,766
株主資本合計	当期首残高	3,525,776	3,435,045
	当期変動額		
	剰余金の配当	△29,486	—
	当期純利益又は当期純損失(△)	△201,498	90,738
	自己株式の取得	—	△ 6
	当期変動額合計	△230,984	90,731
	当期末残高	3,294,792	3,525,776
	その他の包括利益		
	当期首残高	△381,685	△ 298,217
	当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	△22,444	△ 83,467	
当期変動額合計	△22,444	△ 83,467	
当期末残高	△404,129	△ 381,685	
少数株主持分	当期首残高	30	50,010
	当期変動額		
	株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	△30	△ 49,979
	当期変動額合計	△30	△ 49,979
当期末残高	—	30	
純資産合計	当期首残高	3,144,122	3,186,838
	当期変動額		
	剰余金の配当	△29,486	—
	当期純利益又は当期純損失(△)	△201,498	90,738
	自己株式の取得	—	△ 6
	株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	△22,475	△ 133,447
	当期変動額合計	△253,459	△ 42,715
当期末残高	2,890,662	3,144,122	

## 水晶デバイスとリバーエレクトック

スマートフォン、電子タブレット、ゲーム機器、音楽プレーヤー、無線LAN、デジタルカメラ、インテリジェンスキー…。今や水晶が使われていない電子機器を探すことのほうが難しいほど、水晶デバイスはわたしたちの生活とは切っても切れないほど身近なところで重要な役割を果たしているのです。

今をさかのぼること数百年前、キューリー夫人の夫が特定の角度で切り出した水晶板に電界をかけると、水晶はある一定の正確な振動をはじめたことを発見しました。この原理を応用したものが今日的水晶デバイスです。半導体が「産業の米」と呼ばれるのに対し、水晶は「産業の塩」と呼ばれています。

なかでも水晶振動子は、安定した電波の周波数を維持する役割や、電子回路をタイミングよく動かすための規則正しい基準信号やクロック源をつくりだす役割を果たしています。

水晶振動子は表裏に電極をつけた水晶片（下段写真）をセラミックでパッケージにしたもので、このため外気と完全に隔離した中空容器に水晶振動子を組み込むことで高い安定性と信頼性を確保しています。また、水晶は宝石であり非常に硬く、ミクロン単位での制御が必要な振動子を実現するためには、高度な加工技術が必要とされます。

当社は電子ビーム封止技術に代表される自社開発の独自技術を導入することで、世界最小の水晶デバイスを生産し販売しています。高品質を維持した大量生産への対応は、生産設備も重要となります。自社で設計、製作した生産設備を使用することで他社からの優位性を確保しています。

「リバーの水晶製品は暮らしの中で使われています」。みなさんが普段手にしたり目にしたりしている機器はもちろん、世界の思わぬ所でもリバーの水晶が活躍しているのです。



ミリ単位の水素振動子が機器内部の基板に組み込まれ、時計機能などの重要な役割を果たします。モバイル機器はバッテリーの消耗が人気を左右するため、いかに省電力かも要求されます。

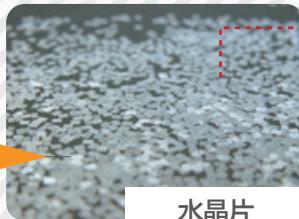
## 水晶デバイスができあがるまで

ここに水晶片（薄さ 20~50ミクロン）の片側が浮くような形で取り付けます。

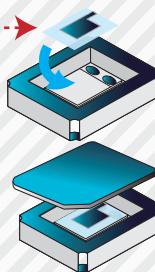
実物大の水素振動子  
FCX-07L(1.6×1.2×0.35mm)



水晶デバイスには、不純物の少ない品質の安定した人工水晶が用いられます。



水晶を切断、研磨し、目的のサイズや周波数特性に合わせて加工を行います。



電極を付した数ミリの水晶片を、電子ビームを利用しパッケージの中に真空状態で封入します。

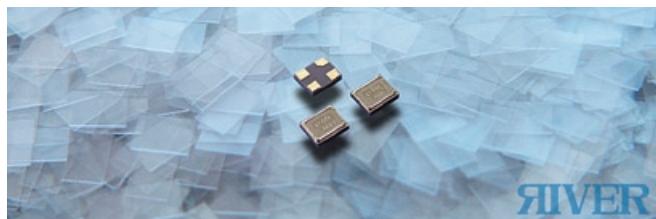
## 小型水晶デバイスのリーディングカンパニー

リバーの水晶デバイスが世界のトップメーカーに頼られる理由、それはサイズの小ささと品質にあります。新製品であるATカットの水晶振動子「FCX-08」は、長さ1.2mm、幅1.0mm、高さ0.3mm、音叉型水晶振動子「TFX-04」は、長さ1.6mm、幅1.0mm、高さ0.45mmといずれも世界最小です。

小型の水晶振動子はモバイル機器の必需品です。特にスマートフォンは音声通信に加えてテレビ、デジタルカメラ、無線LAN、音楽プレーヤーなどの多機能を盛り込みます。そのため1台に使う水晶デバイスの数も増えています。機能は増える一方で端末は小型化、薄型化、省電力化が進んでいますが、そこで求められるのが小型、薄型に強みを持つリバーの水晶振動子なのです。業界に先駆けた高性能、高品質製品を世に送り出している当社は、川の流れるように絶えず変革し、創造、成長を続ける企業集団を目指していきます。



創業間もない頃の当社（写真左）と近年の本社社屋。どこまでも小さくどこよりも小さくというDNAは当時から引き継がれています。



詳しくは WEB で！



水晶デバイスのことやリバーエレテックのことをもっとよく知りたい方は、当社ホームページをごらんください。製品の情報や投資家向け情報の他にもためになるコンテンツを用意しております。水晶について初心者の方でもわかりやすく解説しております。

教えて！水晶デバイス  
<http://www.river-ele.co.jp/company/device.html>  
リバーエレテックとは  
<http://www.river-ele.co.jp/company/river.html>



## ニューストピックス：東芝様からの感謝状



昨年が発生した東日本大震災やタイの洪水といった未曾有の災害時において、安定的な部品供給に貢献したことが高く評価を受け、株式会社東芝 セミコンダクター&ストレージ社より感謝状を授与されました。

株式会社東芝 セミコンダクター&ストレージ社には主にHDDやPC向けといった高い品質と信頼性が求められる水晶振動子を納入しておりますが、このような評価をいただいたことは非常に名誉なことであり、今後もお客様のために信頼性の高い製品を提供してまいります。



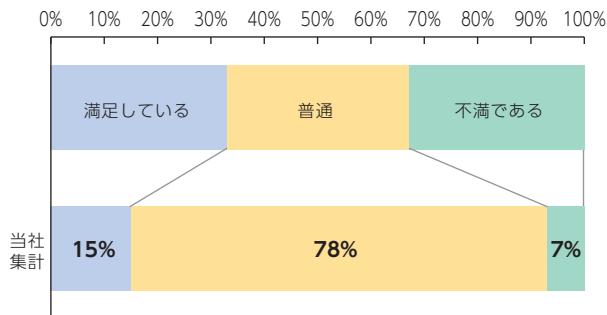


# Stakeholders Communication

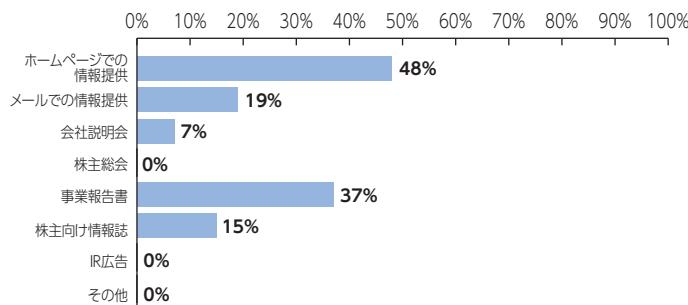
株主様アンケート結果のご報告

第67期中間株主通信においてお願いいたしましたアンケートに、多くの株主の皆様からご回答を頂戴いたしました。心からお礼申し上げますとともに、お寄せいただきましたご回答をご紹介します。株主の皆様からいただきましたご回答の内容を真摯に受け止め、今後のリバーグループの経営及びIR活動に活かしてまいります。

## 1. あなたは当社のIR活動に満足していますか。



## 2. あなたは当社のIR活動について、特に充実を希望することは何ですか。(複数回答)



## 株主の皆様の声 (当社に対するご意見)

- 事業基盤をしっかりと確立し、業績のプレを小さく出来るようお願い致します。また、自社株買い、消却の継続的な実施も併せてお願い致します。
- 引き続き競合他社に対する優位性を維持してより発展されることを期待しています。
- 厳しいとは思いますが、なんとかもう少し配当下さい。
- 円高対策の取り組みについてもっと知りたい。
- 今は我慢ですね。
- 利益を確保してほしい。
- 不要な有価証券の処理を進める。
- 収益拡大を期待する。
- 独自最新技術の開発。

## 株主の皆様のお聞かせください

当社では、株主の皆様のお声を聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

<http://www.e-kabunushi.com>  
アクセスコード 6666

いいかぶ

検索



空メールによりURL自動返信

kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入) アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

※ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝(図書カード500円)を差し上げさせていただきます



※本アンケートは、株式会社 a2media(イー・ツー・メディア)の提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社 a2mediaについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>) ※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます。事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ TEL:03-5777-3900(平日 10:00~17:30)  
「e-株主リサーチ事務局」 MAIL: info@e-kabunushi.com



# Corporate Profile & Stock Information

会社概要・株式の状況

## 会社概要

(2012年6月28日現在)

商号	リバーエレテック株式会社 RIVER ELETEC CORPORATION		
設立	1951年3月9日		
資本金	10億7,052万円		
従業員数	88名		
役員	代表取締役社長	若尾 富士男	
	取締役	三枝 康孝	
	取締役	高保 譲治	
	取締役	萩原 義久	
	常勤監査役	古屋 延行	
	社外監査役	越智 大藏	
	社外監査役	丸山 正和	
事業所			
本社	〒407-8502 山梨県韮崎市富士見ヶ丘2丁目1番11号		
東京営業所	〒160-0023 東京都新宿区西新宿4丁目40番14号		
大阪営業所	〒570-0083 大阪府守口市京阪本通1丁目3番2号 新近藤ビル3F		

## リバーグループ(子会社の状況)

会社名	資本金	議決権比率(%)	事業内容
青森リバーテクノ株式会社	50,000 千円	100	電子部品の製造
台湾利巴股份有限公司	19,200 千台湾元	100	電子部品の販売
River Electronics (Singapore) Pte.Ltd.	123 千米ドル	100	電子部品の販売
River Electronics (Ipoh) Sdn. Bhd.	25,400 千マレーシアリングギット	100	電子部品の製造
西安大河晶振科技 有限公司	18,541 千元	100	電子部品の製造・ 販売

西安大河晶振科技有限公司は、2012年3月までに15,849千円を増資し、資本金が18,541千円となりました。

## 株式の状況

(2012年3月31日現在)

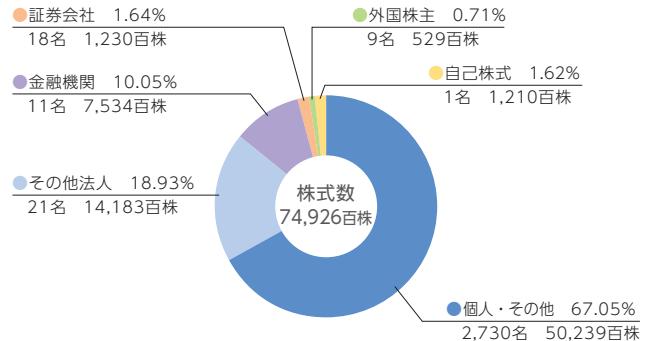
発行可能株式総数	21,600,000株
発行済株式の総数	7,492,652株 (自己株式121,080株を含む)
株主数	2,790名 (前期末比35名増)

### 大株主

株主名	持株数(百株)	持株比率(%)
若光株式会社	12,233	16.60
株式会社山梨中央銀行	2,680	3.64
竹田 和平	2,239	3.04
リバー従業員持株会	2,026	2.75
若尾 富士男	1,832	2.49
若尾 磯男	1,651	2.24
株式会社みずほ銀行	1,500	2.03
持原 和則	1,300	1.76
若尾 亘	1,281	1.74
株式会社商工組合中央金庫	1,200	1.63

(注) 持株比率は、自己株式1,210百株を控除して計算しております。

## 所有者別株式数分布状況



## 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当 毎年3月31日 中間配当 毎年9月30日 そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
事務取扱場所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
郵便物送付／ 電話お問い合わせ先	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 TEL.0120-288-324 (フリーダイヤル)
公告方法	当社ホームページに掲載する。(電子公告) < <a href="http://www.river-ele.co.jp/">http://www.river-ele.co.jp/</a> > ただし、事故その他の止むを得ない事由によって電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
上場証券取引所	大阪証券取引所 JASDAQ (スタンダード)

### 未払い配当金の支払い、支払い明細等の発行に関するお問い合わせ

お手続きお問い合わせ先	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 TEL.0120-288-324 (フリーダイヤル)
お取扱店	みずほ信託銀行株式会社 本店及び全国各支店 株式会社みずほ銀行 本店及び全国各支店 (みずほインベスターズ証券株式会社では取次のみとなります)

### 住所変更、単元未満株式の買取請求、配当金受取り方法のご指定、相続に伴う手続き等

#### 証券会社でお取引をされている株主様

お手続きお問い合わせ先	お取引のある証券会社
-------------	------------

#### 特別口座に記録されている株主様

特別口座管理機関	三井住友信託銀行株式会社
お手続きお問い合わせ先	〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 TEL.0120-176-417 (フリーダイヤル)
特別口座での留意事項	①特別口座では、株式の売却はできません。売却するには、証券会社にお取引の口座を開設し株式の振替手続を行う必要がございます。 ②株券電子化前に名義書換を失念してお手元に他人名義の株券がある場合は至急ご連絡ください。



見やすいユニバーサルデザイン  
フォントを採用しています。